

講義名	教養特講 (経営学科へのいざない)			授業形態	
担当教員	柿沼 英樹 / 井上 芳郎 / 今西 珠美 / 岡田 恵美 / 岡村 直樹 / 持田 信治 / 濱本 隆弘 / 平井 直樹 / 保田 洋 / 李 東浩	開講期・曜日・時間	前期 火曜日 3 時限		
	単位数	2	履修開始年次	1 年生	ナンバリング・コード FVE110

主題と概要

本科目は、企業経営の大まかなプロセスになぞらえながら、商学部経営学科における専門的な学修内容についての導入的な解説を行うものである。経営学科に所属する複数の教員が、自身の担当科目や関連科目にかかわるトピックを概説する。これらによって、(1) 企業経営に関する基本概念を理解してもらうこと、(2) 経営学科での学びの全体像を把握してもらうこと、(3) 「経営戦略」「起業・事業承継」「グローバル経営」「会計」の4つのコースのなかから、興味・関心のある分野や2年次以降に学びを深めていきたい分野を明確化してもらうことを目指す。

到達目標

- (1) 高学部経営学科での学びの全体像を理解できるようになる。
- (2) 2年次以降の所属コース選択について具体的に考えることができるようになる。

提出課題

- (1) 授業回ごとに、小テスト課題やレポート課題を実施する。
- (2) 課題内容や提出方法、期限などについては、各授業回の担当教員の指示に従うこと。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

課題の提出期限後に、各授業回の担当教員が定めた形式で全体向けにフィードバックする。

評価の基準

- (1) 各授業回の担当教員が定める方法で実施する小テスト課題やレポート課題の合計得点で評価する。詳細は、別途案内する。
- (2) 欠席した場合は、その授業回の得点を取得することはできない。ただし、欠席編が提出された場合は、別途配慮する。
- (3) 定期試験は実施しない。

履修にあたっての注意・助言他

- (1) 15回すべてに出席して課題を提出したとしても、合格点に達していなければ単位は修得できない。この点を意識して、毎回の授業にきちんと取り組んでほしい。
- (2) 担当教員ごとに授業の進め方や課題の取り組み方が異なるので、注意すること。

教科書

.使用しない。

参考図書

.なし。

その他

- (1) 講義資料は、キャンパスログインもしくはRYUKA Portalから配信するので、各自で準備すること。教室内での印刷物の配布は、原則として行わない。
- (2) 各授業回の参考図書は、適宜案内する。

授業計画

- 第1回：経営学科の見取り図(柿沼)
経営学科の学びの全体像と、この授業の取り組み方について解説します。
- 第2回：企業論(岡村)
企業と会社の違いと企業や会社の種類、そして、株式会社の特徴について学びます。
- 第3回：経営戦略論(柿沼)
企業が「何に、どのように取り組むか」を明確にする意味や手法について学びます。
- 第4回：経営組織論「マクロ」(濱本)
組織の全体構造や組織形態、組織と環境の関係に注目し、人と人との協働を促す組織作りについて学びます。
- 第5回：経営組織論「ミクロ」(平井)
組織の意思決定やモチベーション、リーダーシップなどの組織内の個々の動きや振る舞いについて学びます。
- 第6回：人的資源管理論(柿沼)
経営資源の1つである「ヒト」という資源の特徴や、企業組織の中でヒトをどのように管理をするのかを学びます。
- 第7回・第8回：日本と海外のものづくり(持田)
日本と海外のものづくりの違いに基づき、日本と海外の製造業に於ける経営戦略の違いを説明します。
- 第9回：会計(島田)
企業会計の意味や役立ちについて、企業が公表する財務情報の事例分析をもとに説明します。
- 第10回：経営情報論(保田)
情報を経営にいかんにか活用していくか、ITを利用した情報システムの役立て方について説明します。
- 第11回：起業、事業承継(岡田)
日本における起業、創業を取り巻く環境、様々な起業の形について事例を通じて説明します。
- 第12回：事業革新(井上)
事業革新と事業創造で経済を活性化させた事例と、その背景にある経営理論を解説します。
- 第13回：グローバル競争論(李)
国の競争力をテーマに、様々な情報源より世界での日本、中国、米国の位置づけを解説し、受講生の大局観を養成します。
- 第14回・第15回：国際経営論(今西)
企業のグローバル経営について取り上げます。国境を越え、異なる政治・経済・文化の中で活動する企業の姿を捉えます。

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア：PBL(課題解決型学習)	イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

- <予習：60分程度>
講義資料を事前に通読し、効率的・効果的な授業履修に備えること。
- <復習：120分程度>
当日の授業内容を整理し、分からなかったところを書籍・インターネット等で確認し補完すること。
加えて、企業経営に関する話題に触れ、講義で学んだことが実際の企業経営や自身の職業生活にどのように役立つのかを考えること。
- <課題：60分程度>
授業回ごとに提示された課題に取り組むこと。
また、分からなかったところを教員からのフィードバックや書籍・インターネット等で確認し補完すること。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

「知識を知らし転換することができる、論理的思考力を持った人材」になるために求められる、企業経営に関する基礎知識を獲得することができる。加えて、それら基礎知識を活用して、企業経営の実相を理解するためのポイントを掴むことができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

- (1) 授業内で、英語やオンラインツールへの書き込みを求めることがある。積極的な授業参加を期待する。
- (2) 小テスト課題やレポート課題は、オンラインツールを活用して実施する。

実務経験の有無及び活用

備考